

# 奈良県

## 奈良県退職校園長会

結成 昭和40年9月26日

### ◇昭和の歩み

昭和40年退職校長の有志が呼びかけ、126名の出席者のもと結成大会が催され、奈良県退職校長会が発足した。昭和59年退職幼稚園長を会員に迎え、奈良県退職校園長会と改称した。昭和60年代、新たな事業として理事特別研修、現職小・中・高校長との懇談会を始めている。

### ◇平成の歩み

平成15年「奈良県教育の日」の制定を受け教育講演会を毎年開催、県民の教育への関心を高める。17年より人材バンクを設立し、会員の知識経験を活かし、学校園の教育や社会教育に貢献する。22年会員名簿をデジタル化し、データベースを構築する。

支部を5地区グループに編成し、各地区選出の郡市理事と本部で実行委員会を組織して主な行事を推進する。27年11月本会創設50周年の式典挙行。創設50周年

記念誌「奈良県退職校園長会のあゆみ」発行し、更なる本会の発展を誓い合う。28年より現職校園長との連携を深めるために「現職会員制度」を新設する。幼小中の現職校園長の約20% 94人の入会を得た。30年より支部との更なる連携を深めるため「支部会長会」を開催する。



浮見堂（奈良公園）

### ◇令和の歩み

令和2年は新型コロナウイルス感染症の流行により事業の推進にかなりの制約を受ける。総会等の行事の中止、縮小が相次ぐ事態となる。新任校長支援アドバイザー制度の実施、2年～3年財務検討委員会を立ち上げ、事業を見直し支出削減に努める。4年から5年にかけてコロナ感染症も落ち着き、順次すべての事業が回復する。4年より組織改革検討委員会を設置し事務局組織の在り方を検討、事務局長の所掌事務の軽減、常任理事の選出などの改善を図る。6年10月全国連合退職校長会近畿地区協議会「奈良大会」を開催した。7年度は本会創設60周年を迎え会報「萬葉」創設60周年記念特集号を発行する予定である。

### ◇今後の課題

最近は学校園の減少・校園長の定年延長等により新入会員の確保が難しくなっている。会員数の減少は最大の課題である。入会勧誘を工夫すると共に更に魅力ある組織づくりに努め、会員の増強を図ることが大切である。